

日産厚生会玉川病院を受診された患者さまへ

当院では下記の臨床研究を実施しています。本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にご連絡下さい。

研究課題名	胸腔子宮内膜症関連気胸における横隔膜切除後の臨床的影響
当院の実施責任者	(所属) 気胸研究センター (氏名) 坪島 顕司
他の研究機関および各施設の 研究責任者	なし
研究の目的	胸腔子宮内膜症関連気胸は、30～40 歳代の女性に起こる稀な病気です。本来はお腹の中にある子宮内膜の組織が何らかの理由で横隔膜や肺の表面に出現し、月経の時期に弱くなって穴があくことで、自然気胸を繰り返すと考えられています。そのため、手術で横隔膜や肺の病変部分を切除することが一般的です。横隔膜は呼吸に大きな役割（約 7 割を担うと考えられています）を果たしています。治療を受ける患者さんは働き盛りの年齢にあたり、その切除によってどのような影響が出るかを調べることは重要なことです。しかし、この病気自体が稀であることに加え、他の病気でも横隔膜を切除することはほとんどなく、これまで詳しい調査は行われていません。そこで本研究を行うこととしました。
研究の方法	手術を受けた患者さんの術後の呼吸機能（息を吸う力と吐く力）、術後の横隔膜ヘルニア（横隔膜に弱い部分ができてお腹の臓器が胸の中に向かって突出する状態）の有無等を、診療記録を用いて過去を振り返る形で調査します。
対象となる方	当院で 2019 年 1 月から 2025 年 8 月までに当院で胸腔子宮内膜症関連気胸に対する初めての手術を受けた患者さん（約 120 名）
調査期間	西暦 2025 年医学研究倫理委員会承認日～2027 年 3 月 31 日
使用する情報・試料	カルテに記載のある診療記録、検査データを利用します。 (性別、年齢、BMI、喫煙歴、ホルモン療法、病変の部位、経過観察期間、横隔膜の切除範囲（長さ と 幅）、術後の呼吸機能、X 線検査や CT による術後の横隔膜ヘルニアの有無等)
個人情報の取り扱い	利用する情報から氏名や住所等の患者様を直接特定できる個人情報は削除し解析を行います。研究成果は学会や論文等で発表を予定していますが、その際も患者様を特定できる個人情報は利用しません。 本研究のために収集したデータは、研究終了後 5 年間保管し、その後はすみやかに消去します。

試料/情報の他機関への提供 有無、および提供方法	なし
本研究の資金源（利益相反）	本研究に関し、開示すべき利益相反関係にある企業等はありません
お問合せ先	公益財団法人日産厚生会玉川病院 （所属）気胸研究センター （氏名）坪島 顕司 （電話番号）03-3700-1151
備考	なし